

女性も男性も 働くことで輝き活躍し続けられる環境を目指して

関西学院大学は2010年度から2012年度まで文部科学省の「女性研究者支援モデル育成事業」の採択を受け、大学における男女共同参画をめざしあらゆる施策に取り組みました。理工系の女性研究者の増加をはかり大学を活性化することを目標とした本事業では、理工学部を中心としたさまざまな取組が行われ、二年目には文系学部にも拡大されました。

その結果、事業終了時には学長による男女共同参画宣言が発せられ、推進本部は新たに学院全体の男女共同参画を推進することになりました。また、出産・育児期の女性研究者に研究支援要員を配置するピンチヒッター制度は終了後も継続されています(裏面に詳細)。

2014年度には大学が Super Global University として採択され、2015年度は理工学部における三学科増設、高等部での男女共学開始と、関西学院は今、変革・拡大の時期にあります。

しかしながら、女性教員数はまだ少なく、特に意思決定機関に含まれる女性は圧倒的少数という現状です。

男女共同参画を実現する体制づくりのためにも、制度の充実等のインフラ面とともにロールモデルの提示といった意識面の双方から働きかけ、女性も男性も働くことで輝き活躍し続けられる環境づくりが、ますます必要になってきています。

平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業 女性研究者研究活動支援事業(連携型)における取組

神戸大学が基幹校となり採択された女性研究者研究活動支援事業(連携型)事業も、2015年度は2年目となりました。この連携型事業は神戸大学、関西学院大学、兵庫県立大学の3大学が互いに連携することにより、女性研究者の研究力・マネジメント力を増強させて女性研究者の上位職への登用の推進、また企業と連携をはかることにより、産学共同研究の促進や女子学生および女性研究者のキャリアパスの拡大を目的としています。

そうした方針のもと、本事業の一環として2015年度は主に以下のような取組を進めてきました(本学での開催を以下に、他大学での開催を裏面に掲載しています)。なお、年間を通した取組として、共同研究における若手女性研究者をprincipal investigator (PI)として選出、連携機関の研究者と共に共同研究を組織化することで、研究力・マネジメント力を高め、研究ネットワークの拡大を支援しています。採択年度にはスタートアップ研究費を付与するほか、子育て中の場合は研究支援員を配置するなど、文系・理系の若手女性研究者が研究リーダーとして経験を積むことで、その研究力向上をめざしています。

2015年度 本学での開催プログラム (2016年度開催分は順次学内パブリックフォルダおよび男女共同参画HPにてお知らせいたしますので奮ってご参加ください!)

英語スキルアップセミナー

日時：2015年7月31日(金) 13:00～17:00
場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 本部棟2階会議室4

プログラム

「アクセプトする論文の書き方」ワークショップ

西川 マリ 講師 カクタス・コミュニケーションズ株式会社
(英文校正エディター)

セミナーのねらい

- ▶ 英語論文の執筆経験者を対象に、学術論文の標準的な構成形式であるIMRAD形式の論文について、執筆上の留意点を学ぶ
- ▶ 自分の研究を正確かつ分かりやすく読書(査読者)に伝える力を培うとともに、アクセプトされ、検索され、引用される論文に必須な条件を学ぶ

参加者の声 (参加者アンケートより抜粋)

- 大変具体的で明快だった(大学院生(博士課程))
- 論文執筆には何か特別な裏技があるのではなく、分かりやすく丁寧に書くことが大切なのだと思った(大学院生(修士課程))
- 医学分野だけでなく、人文系の分野の良いreferenceもあるとよかった(教員)

※なお、2016年度については9月30日(金)実施予定です。これまで出席された方でも改めて参加いただけるような企画を準備しておりますので、皆様ぜひともご参加ください。

キャリアカフェ

日時：2015年11月17日(火) 12:50～15:00
場所：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス 本部棟2階会議室4

プログラム

「女性が活躍するために ～秘伝を伝授～」

松見 淳子 氏 関西学院大学文学部総合心理科学科 教授
門脇 あつ子 氏 大阪ガス(株)エネルギー技術研究所 企画チームマネージャー
倉島 哲 氏 関西学院大学社会学部社会学科 教授

講演者と参加者とのグループディスカッション

参加者の声 (参加者アンケートより抜粋)

- 女性視点からのキャリアの重ね方、その上での日本の雇用面、経済面での課題について知ることができた(学部生)
- よくある「女性は専業主婦」的な概念が良い意味で裏切られた(大学院生)
- スーパーウーマンだけでなく、20～30代の現場社会で今実際にもがいている人たちの話が聞けてもよかった(大学院生)

2015年度他大学での開催プログラム

(2016年度開催分は順次学内パブリックフォルダおよび男女共同参画HPにてお知らせいたしますので奮ってご参加ください!)

キャリアパスショートセミナー

日時：2015年7月27日(月) 16:20～17:40
場所：神戸大学 農学研究科 大会議室

プログラム

「エネルギー技術研究所の紹介 ～女性研究者が活躍する職場例～」
門脇 あつ子 氏 大阪ガス(株)エネルギー技術研究所企画チームマネージャー
「三菱総合研究所の紹介 ～シンクタンクにおける女性研究者の活躍～」
吉池 由美子 氏 (株)三菱総合研究所 人間・生活研究本部人材育成・教育グループリーダー

トップマネジメントセミナー

日時：2016年1月20日(水) 15:00～17:00
場所：兵庫県立大学 神戸商科キャンパス 教育棟III 2階C216教室

プログラム

「女性活躍推進法と望まれる大学運営」
河村 潤子 氏 文部科学省国立教育政策研究所長
「ワークライフバランスに必要な職場のバックアップ ～イクメン医師の日常から～」
田中 秀和 氏 神戸大学医学研究科循環器内科学分野 講師

※ご希望の方には上記各種イベントでの当日配布資料をお渡しいたしますので、事務局までお問い合わせください。

女性研究者研究活動支援制度(ピンチヒッター制度)について

出産・育児に伴い研究時間が確保しにくい女性専任教員(任期制教員・博士研究員を含む)が継続的に研究を行うことができるように、当該教員に代わって研究を行う支援者を雇用することができる制度です。2015年度は全学でのべ10名、のべ1,774時間利用されました。今後は利用者要件を女性だけでなく育児中の男性や介護者にも拡張できるよう、制度の整備・充実を進めていきたいと考えています。詳細については、学内パブリックフォルダの「お知らせ」にてご案内しています。

● 利用者の要件

次の要件すべてを満たす方

- ・専任教員、任期制教員、博士研究員の資格の方
- ・女性で、出産・育児のために十分な研究時間の確保ができない方
- ・原則、小学校卒業時までの子どもを養育する方

● 支援者の要件

次の要件すべてを満たす方

- ・利用者と同一または関連する分野を専攻する方
- ・支援活動することにより、支援者の研究者としての能力向上が見込める方
- ・支援者の給与支給基準に定められている資格に該当している方

● 支援可能な業務例

- ・実験の補助(機器操作、データ採取、解析、図の作成、論文作成補助)
- ・資料検索、DBの作成、音声データの文字化(PC作業)
- ・学内図書館での資料収集、文献調査
- ・論文の英訳、和訳(補助)

● 利用者の声

- ・育児をしながらでは難しいであろう詳細なデータ分析や研究内容の論文化に必要なまとまった研究時間を確保することができた
- ・みっちり研究できないことがストレスとなり、育児中も気がかかっていたが、定期的に研究を進めてもらえたおかげで精神的負担が払拭され、こうした状況でも研究業績を増やすことが出来た
- ・これまで研究が忙しいときは休日勤務をせざるを得ず、個人的に融通のきく方に保育を頼むといった場面も多かったが、この制度を利用して初めてからその機会は格段に減った。精神的にも余裕が生まれ、これまで以上に研究を楽しむことが出来るようになった

● 支援者の声

- ・実際の研究活動を支援することにより、授業やゼミでは得られない知識を得ることができた
- ・研究や論文執筆を進めていく過程を支援することで、研究活動の具体的な進め方を学ぶことができた
- ・支援活動での経験が、自分自身の学会発表での発表資料作りに活かされた
- ・データを効率的に処理したり、短時間で資料を作成するスキルが身に付いた
- ・育児中の研究者と連携して実験研究を行うことで、多様の働き方が存在すること、またチームで連携して研究成果を出していくという貴重な体験ができた

男女共同参画に関するお問い合わせ

学校法人 関西学院男女共同参画推進本部 (事務局：人事部人事課)
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1ー155 Tel：0798-54-6008 Fax：0798-51-0428
HP：http://www.kwansei.ac.jp/gender/ E-mail：danjokyodo-kg@kwansei.ac.jp

学術講演会(商学部主催・男女共同参画推進本部協賛)
「女性公認会計士という生き方 ―監査法人で積み重ねるキャリア―」

日 時	2015年6月18日(木) 4限(15:10～16:40)
場 所	B号館303教室
企画主体	日本公認会計士協会近畿会女性会計士委員会
講演者	挨拶 摺田ゆみこ氏(公認会計士、日本公認会計士協会近畿会女性会計士委員会委員長) モデレーター 伊加井真弓氏(公認会計士、監査法人パートナー) パネリスト 田中久美子氏(公認会計士、監査法人パートナー) 宮口 亜希氏(公認会計士、監査法人シニアマネジャー) 常峰 和子氏(公認会計士、監査法人マネジャー)

◆講演会のねらい

関西学院男女共同参画推進本部は、商学部主催の学術講演会「女性公認会計士という生き方―監査法人で積み重ねるキャリア―」に協賛するかたちで、2015年度男女共同参画フォーラムを開催しました。この講演会の企画主体である日本公認会計士協会近畿会女性会計士委員会は、2001年に『女性会計士20人 人生の中間決算書』を発刊しています。この度、この本が電子書籍化され、誰でも無料でダウンロードができるようになりました。今回の講演会は、この電子書籍化のお知らせも兼ねて、大学生が今後のキャリアを考える際の参考となるよう開催されました。

公認会計士のような資格を有する職業は男女差がなく女性公認会計士は男女平等の環境下で働いているように見えるかもしれませんが、しかし実際のところは、男性社会である大手監査法人でキャリアを積み重ねていくことには様々な苦労があります。結婚、出産、育児など、女性ならではのライフイベントによって、監査法人でのキャリアを諦めていく女性会計士も少なくありませんが、一方で、しなやかにキャリアを積み重ねてきた女性会計士たちがいます。この講演会は、そういった方をお招きし、トークショーという形でこれまでのキャリア、モチベーション、仕事のやりがい、ワーク・ライフ・バランスのコツなどを本音で語ってもらおうという企画で、大学生に、人生の選択肢やロールモデルを示すことを目的としています。

◆挨拶

まず、講演会開催に先立ち、講演者を代

ぐるみで女性活躍の推進を図る活動をしており、女性が活躍できるような仕組みが整いつつあります。女性は自分を過小評価せず、自分のしてきたことに自信をもって、それを周囲にアピールする姿勢を持つべきだと思います。

常峰氏…私は大学卒業の年に、3回目の受験で会計士試験に合格しました。今は、パブリックセクター部門に勤務しています。パブリックセクターとは、官庁、地方自治体、学校法人などの公的機関のことで、学校法人や自治体などの監査をしています。自治体の包括外部監査では、税金が有効かつ効率的に使われているかを監査します。コンサルティング業務では、公会計に民間の会計や決算の仕組みを取り入れるアドバイスなどをしています。これらの仕事は、日本国民の税金を適正に使用する手助けとなり、社会貢献につながっているというやりがいを感じることができます。仕事内容自体に男女差はありませんが、監査法人は必ずしも女性が働きやすい環境であるとはいえないと私は感じています。まだ日本の企業は男社会であることが多いため、女性というだけで、クライアントの方から頼りなく見られることもあります。そういう面からすると男性に少し有利な世界かもしれませんが、監査法人の努力により、女性も気持ちよく働けるような環境が整備されつつあります。



私は、就職を考える時期に、まだ自分が何をしたいかがよくわかっていませんでした。ちょうど就職活動が厳しかった時期だったこともあり、資格取得を目指したのです。しかし、実際に会計士として働いてみて感じるのは、この仕事は結構面白い、ということだと思います。企業の監査や自治体関係の仕事をする

表して種田ゆみこ氏より挨拶がありました。種田氏による挨拶の概要は次のとおりです。

公認会計士は一時期就職状況が悪かったこともあり、公認会計士試験受験者数、特に女性受験者数は減少傾向にあります。しかし、今は人手不足の状況にあり、受験者数の減少が問題となっています。私たちは公認会計士として、社会の健全な発展に貢献するために、監査法人で働いています。監査法人は男性社会であり、女性が働く上での困難もありますが、男女問わず、公認会計士という職業に関心をもっていただければ幸いです。

◆パネルディスカッション

挨拶後、早速パネルディスカッションが行われました。今回モデレーターを務められたのは伊加井真弓氏です。まずは伊加井氏より、公認会計士を監査法人について次のようなご紹介がありました。

公認会計士とは、会計のスペシャリストとして、企業等の公正な経済活動・社会の健全な発展に重要な役割を担う専門家です。監査、税務、コンサルティングなどの分野で約3万人が活躍しています。監査法人とは5名以上の公認会計士で設立された法人で、約2000存在します。上場会社の監査は、ほとんどがBIG4とよばれる大手監査法人によってなされています。監査法人の職階には、パートナー(企業でいう株主兼取締役)、シニアマネジャー(上級管理職)、マネジャー(管理職)、シニア・

ことも、企業の取締役になることも可能です。女性であっても将来の選択肢を無限に広げることができる素晴らしい職業であると思います。

パネリストからの説明終了後、モデレーターからパネリストたちへ、参加者より質問の出そうなQ&Aに回答していくかたちで進められました。その時の内容は次のとおりです。

Q1. 苦労したことは何ですか？

A1. 如何にコミュニケーションをとるかです。上司とのコミュニケーションがうまくいかなかったこともあります。クライアントとうまくいかないときもあります。監査の繁忙期の勤務時間が長いことについては、さほど苦痛とは思いません。

A2. 子育てです。子供が急に病気になる時に、人の手配や看病が難しかったです。子供が学校に行きたがらず泣いた時、3人目が生まれて長女が寂しがっていた時には、辞めようと思ったこともありました。1年間は時短勤務で午後5時半に退社して両立しました。今は、子供たちは元気に学校に通い、クラブ活動もしています。

A3. いざ海外赴任となった時に夫に単身赴任を反対され、1回目の海外赴任のチャンス逃してしまいました。中国のときは自分で決めました。

A4. 子供3人の中学入試のコーディネートしなければならなかった時が一番大変でした。

Q2. ワーク・ライフ・バランスのコツは何ですか？

A1. 周りに協力してもらえ体制をつくることです。夫、夫の実家、チームメンバーなどの助けを借り、自分ひとりで抱え込まないことです。自分の状況を周りに説明して、理解してもらうことが大切です。そして、協力してもらった方への感謝の気持ちを忘れないことです。相手が困っているときは自分が助けます。皆の協力で働かせてもらっているという意識が大切です。また、オンとオフをはっきりさせることです。繁忙期は残業続きですが、他の時期はそうでもありません。

A2. 事前の準備、チームをまとめる進捗管理をしっかりすることです。効率的に仕

スタッフ(現場責任者・現場実務従事者)があります。公認会計士になるには、短答式試験(4科目)と論文式試験(5科目)に合格した後、2年以上の実務経験と実務補習を経て、実務補習所の修了審査に合格することが必要です。現在、女性公認会計士の割合は、15～20%程度です。

その後、パネリストとして登壇された田中久美子氏、宮口亜希氏、常峰和子氏各々に、悩ま迷いながらも歩んできたこれまでのキャリア、苦労してきたこと、働き続けるモチベーション、仕事の面白さ、ワーク・ライフ・バランスのコツ、人生の楽しさなどをトークショー形式で語っていただきました。各氏の説明概要は次のとおりです。

田中氏…私は、1993年の大学院生の時に試験(論文式)に合格しました。当初から海外で働きたいという希望があり、2003～2006年に単身で中国の広州に駐在しました。中国の会計士制度のもとは、日本の公認会計士の資格を持つていても監査はできませんが、日本の公認会計士に対するニーズはあります。中国には日系企業が多く進出しており、彼らは現地(中国)の公認会計士事務所と契約していますが、文化や言語の違いから、専門的な内容は通訳を通して意思疎通が容易ではありません。そこで中国の公認会計士と日系企業とのコミュニケーションの橋渡し役として、中国語を話せる日本の公認会計士が、日系企業にも現地企業にも必要とされています。広州事務所では、私が最初の日本人駐在員でした。上司は香港人、仲間は中国人の中で、前任者もなく、言語の壁にも苦労しましたが、クライアントである企業の期待に応えられるよう懸命に努力し、信頼関係を構築していきまし。帰国後は、中国での経験を生かして、日系企業・買収)海外企業の対象としたM&A(合併・買収)に関するビジネスに携わっています。女性である私が海外赴任したように、監査法人では仕事内容に男女差はありません。しかし、パートナーの女性比率が低いことからわかるように、昇格には何らかのハードルがあります。ただし、私自身がパートナーであるように、頑張り次第で報いられる世界です。女性もチャンスをつかむことは可能

です。仕事上の出来事を、つらいと捉えるか、チャンスと捉えるかは考えようです。女性だからできないと考えるのではなく、前向きに考える姿勢を持ち、こつこつ努力すれば、いつか努力が報われるときが来ます。

宮口氏…私は大学(関学)3年生の4月から簿記の勉強を始め、まずは税理士であった叔父の影響もあって、税理士試験の勉強をし、4年生からは会計士試験の勉強に変更し、卒業の年には会計士試験の勉強に気づくと大阪事務所の監査部門で働いています。決算書は数字の羅列ですが、数字の中には様々な取引、経営者の判断や思いが凝縮されており、会社の事情が垣間見えます。これらの数字について、企業の現状を把握するためにクライアント(顧客企業)と対話しながら業務を進めていきます。また、業種の特徴、経営環境、組織規模、経営者の考え方など、あらゆる面からアプローチをして、適正かどうかを判断します。また、監査業務はチームで行うため、業務を滞りなく進めるためにも、コミュニケーション能力が欠かせません。伝える、まとめる、文書にする能力、また、相手の意見を理解し、自分の意見を的確に伝える力が必須とされます。会社の方は、会計士は何でも知っていると思っていますから、何事にも解決策を提供して、プロフェッショナルとして「先生」とよばれるにふさわしい仕事を心がけています。

会計士は女性であっても男性と同じように仕事はできますが、家庭を持つと、家庭と仕事の両立が求められます。私自身には3人の子供がおり、育児休暇も取りました。両立のために仕事のペースを落とさなければならぬ時期が来ることもあります。が、働き方は自分自身で選べるため、キャリアを途切れさせないことが可能です。ただ、組織側にも課題があり、いまだ監査法人は男社会です。昇格するには引き上げてくれる人の存在が大きく、一般に男性上司は男性部下を引き上げる傾向がありますので、パートナーの女性比率は5%と低いままです。また、ロールモデルとなる女性の先輩が少ないことも、女性がキャリアアップを考える上での障害になっているのかもしれない。しかし今、監査法人では、組織

事をするために、例えば、メールを確認する時間を決めています。それから、楽しみをつくることです。繁忙期の前に家族旅行の計画を立て、それを夢見て頑張っています。週末の映画やマッサージなど、自分が癒されることを楽しみにするのでもいいですね。

Q3. 監査法人のパートナーとして、人の上に立つにはどのような能力が必要ですか？

A1. ピラミッドの下からどう見えているかを常に意識しています。自分に自信を持つて後輩に後ろ姿を見せられるような、ロールモデルになつてもらえるようなパートナーを目指しています。

A2. パートナーは最終判断をする立場ですから、決断をし、早く結論を出すことが大事だと思っています。子供のことで現場を離れなければならない時には、チームで情報を共有しておき、自分が抜けてもチームが回るようにしておくことが大事です。

Q4. 監査法人で仕事をする上で気をつけるべきことは何ですか？

A1. 長く勤務しているとなることが起きますので、社会での人脈をいろんなルートで築いておくことです。いろんな人と関わり合いを持つておくことが大切です。

Q5. 学生へのメッセージをお願いします。

A1. 大学生の時の1年の成長は大きいですが、本を読む、海外に行く、多くの人と出会うなど、大学生活を満喫してほしいです。就職の時期には、自分は何がしたいのか、なぜそれをしたいのかなど、自分に真剣に向き合ってほしいです。皆さんの活躍を期待しています。



A2. 会計士は結構おもしろい仕事です。企業の監査や公会計の仕事、独立、企業の監査役など、可能性は無限大です。

A3. いろんなことを辛いと思うかチャンスと思うかは自分次第です。辞めたいと思うこともありましたが、前向きにコツコツ努力していると道は開けます。

『女性会計士20人 人生の中間決算書』

目次

第1章

あなたの近くで活躍する先輩公認会計士

第2章

女性会計士の卵は、こんなことを考えている

第3章

監査法人というフィールド

第4章

公認会計士に国境なし

第5章

独立、というもう一つの選択肢

第6章

新しいフィールドで働く公認会計士

第7章

長く続けてきた末に発見したこと

<掲載先リンク>

<http://p.booklog.jp/book/73241>

<http://p.booklog.jp/book/73243>

<http://p.booklog.jp/book/73245>